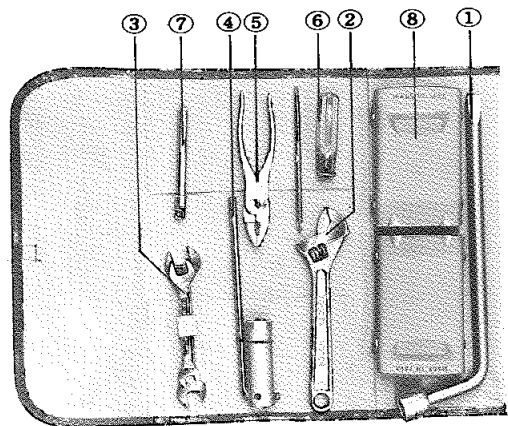


セルフ・サービスのしかた

CORONA *MARK II* PICK-UP

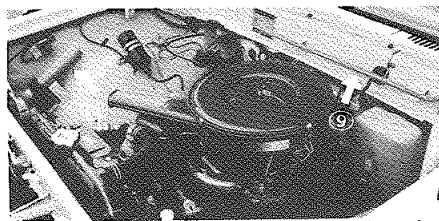


工具とジャッキ

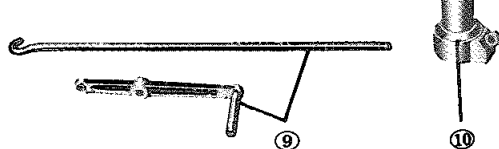


- ① ハブ・ナット・レンチ
- ② モンキー・レンチ
- ③ 組スパナ
- ④ スパーク・プラグ・レンチ
- ⑤ プライヤー
- ⑥ ⊕/⊖ドライバー
- ⑦ タイヤ・プレッシャー・ゲージ
- ⑧ 輪止め
- ⑨ ジャッキ・ハンドル
- ⑩ ジャッキ

格納位置

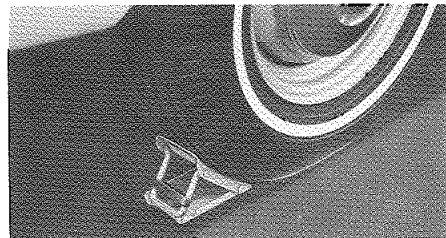


ジャッキはエンジン・ルームの中に格納されています。工具はシートの下に格納されています。



パンクの処置

1 準備



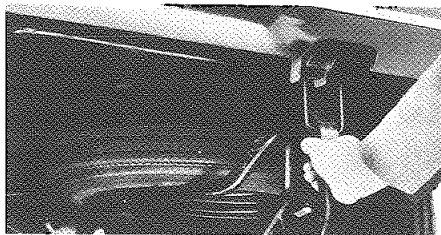
まず、同乗者や重い荷物などをおろします。次にジャッキ、ジャッキ・ハンドルおよび工具を取出し、しっかりと輪止めをしてください。

2 =スペア・タイヤ



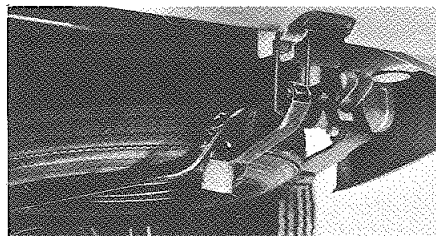
ハンドルを起こしてフックからレバーをはずします。

スペア・タイヤ・キャリヤをそっとおろし。スペア・タイヤを取り出します。



格納するときは、スペア・タイヤをキャリヤに乗せてもちあげ、フックをかけます。フックは標準タイヤの場合、上から

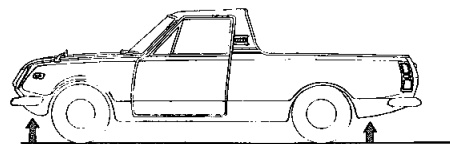
二段目が基準です。次にハンドルの中央部をもっていっぱい前まで押し倒します。



盗難防止のため、写真のように錠前等で施錠することもできます。

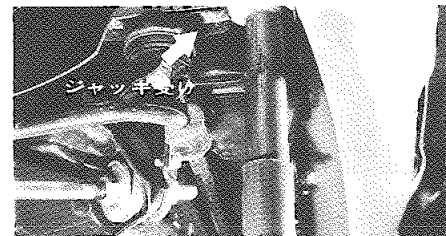
取り出したスペア・タイヤは、ジャッキがはずれたときの危険防止のため、パンクした車輪のボデーの下に置きます。

3 =ジャッキをセットする

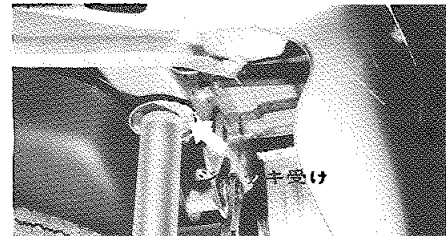


交換する車輪に近いサイド・メンバーにジャッキをセットします。

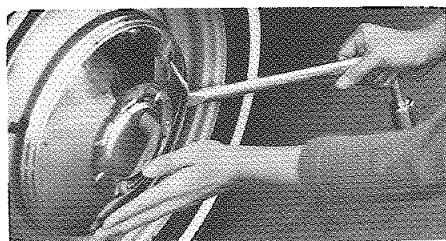
サイド・メンバーの前端にジャッキの受けがあります。



サイド・メンバーの後端にジャッキの受けがあります。

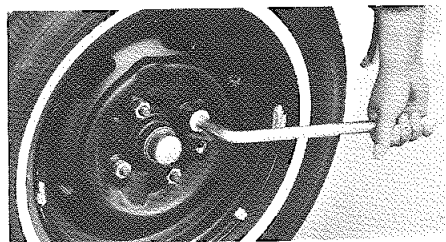


4 =ホイール・キャップをはずす



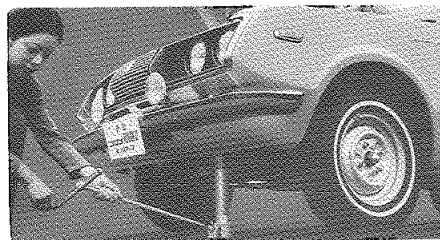
ドライバーまたは、ハブ・ナット・レンチのところがった方ではずします。

5 =ナットをゆるめる



ハブ・ナット・レンチで4個ともゆるめます。〈ナットをはずすと危険〉

6 =ボデーをもちあげる



タイヤと地面が2cmくらいあくまで、静かにジャッキ・ハンドルをまわす。
〈ボデーの下に入るのは危険〉

7 =車輪をとりかえる

ナットをはずし、車輪を少しあげるようにしながらはずします。

スペア・タイヤをボデーの下から取り、その位置にはずした車輪をおきます。

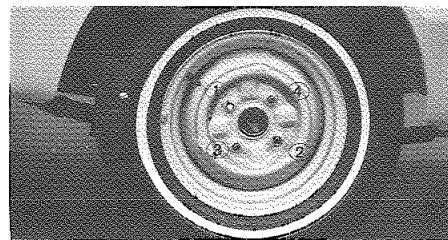
〈ジャッキがはずれたときの危険防止〉
スペア・タイヤをはめ、ナットの平面の方を外側にして車輪にあたるまで締付けます。

ナットを座に落着かせるためにゆっくり

車輪をまわしながら、ナットを締付けます。

8 =ボデーをおろす

9 =ナットを締付ける



写真の順序に、ハブ・ナット・レンチでしっかりと締付けます。

10 =ホイール・キャップをはめる

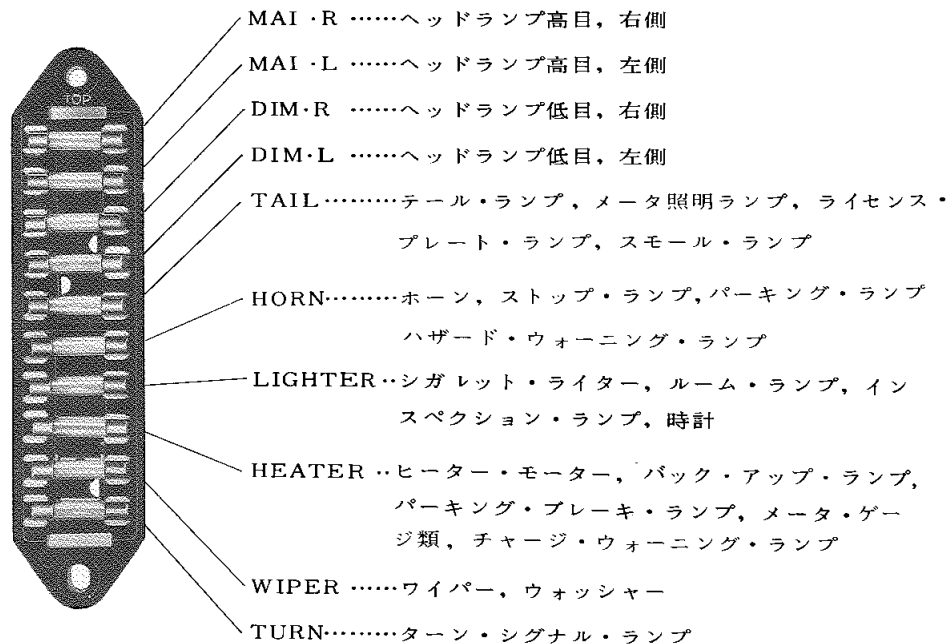
タイヤの空気口を、キャップの穴に合わせキャップをたたいてはめます。

11 =タイヤの空気圧を正規にする

12 =車輪と工具をかたずける

ヒューズ・ランプ類の交換

■ヒューズ



各ヒューズを受持っている電気関係の部分
は前図のようになっています。

ヒューズ切れを確認する場合には、1つ
のヒューズを受持っている電気関係の部
分が全部作動するかを見て、全部作動し
ない場合にはヒューズ切れ、その中の1
つだけの場合にはヒューズは切れていま
せん。

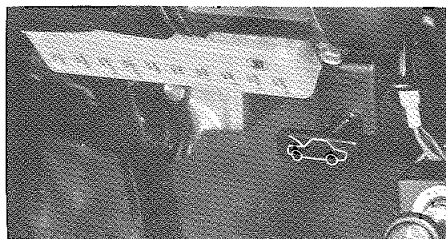
例……WIPER ヒューズを点検するとき

1. ワイパーもウォッシャーも作動しない……ヒューズ切れ
2. ワイパーは良いがウォッシャーが作動しない……ヒューズは切れていない。

点検は例のようにして行なってください
万一、この方法でだめなときは他に故障
がありますからこのときはサービス工場
に連絡してください。

断線したヒューズを発見するための一覧表

不具合箇所 (点灯動作せず) ヒューズ	ヘッドランプ上 向右	ヘッドランプ上 向左	ヘッドランプ下 向右	ヘッドランプ下 向左	フロントの車幅 灯左右	テールランプ 左右	ライセンス プレートランプ	コンビネーション メータ照明ランプ	ホーン	ストップランプ 左右	コンビネーション メータ内のゲージ	パーキング インジケータランプ	ウグツブ エンジン 点灯		ワイパー モーター	ヒータのプロワ モーター	ターンシグナル ランプ	ウインドウオッ シヤ	タイマー	シガレットライ タ	ルームラン プ	バックアップラ ンプ	パーキングラ ンプ		
													エンジン回転 中のみ	エンジンスイ ッチがONにあ れば点灯											
MAIN. R 10A	○																								
MAIN. L 10A		○																							
DIM. R 10A			○																						
DIM. L 10A				○																					
TAIL 10A					○	○	○	○																	
HORN 20A									○	○														○	
LIGHTER 20A																				○	○	○			
HEATER 20A											○	○	○	○	○									○	
WIPER 15A																○	○								
TURN 15A																		○							



カバーは両端をもって引っぱっては
ずしません。ヒューズはそのまま引
っぱればはずれます。

ヒューズは、スペア・ヒューズの中
から規定のヒューズを選んでつけ
ます。

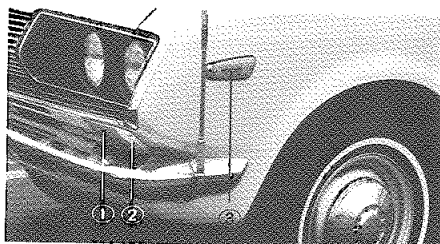
もし規定のヒューズの持ち合せが
なかったら一時的に他のスペア・
ヒューズを使用し、その後規定の
ヒューズと取りかえます。

《注意》

何度もヒューズが切れるときは、
大容量のヒューズは決して使用し
ないで、サービス工場での点検を
受けてください。

■ランプ類の点検

フロント



①スモール・ランプ

フロント・パーキング・ランプ(7/3.4W)

②フロント・ターン・シグナル・ランプ (23W)

③サイド・ターン・シグナル・ランプ (8W)

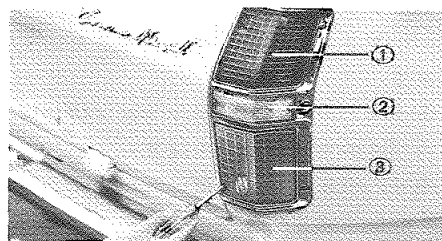
バルブ交換は、レンズ表面のネジを
はずしてレンズをとり、バルブを
いっぱい押しこんで左に回しては
ずしません。

バルブをはめるときは、バルブを
いっぱい押し込んで右に回して
ください。

《注意》

ソケットおよび接着部の錆、汚
れをとっててください。

リヤ



①テール&パーキング・ランプ(8/3.4W) テール&ストップ・ランプ(23/8W)

②バック・ランプ(23W)

③ターン・シグナル・ランプ(23W)

バルブの交換は、トランク・リ
ッドを開いて、トランク内のラ
ンプ・カバーのネジを左にまわ
してはずしません。

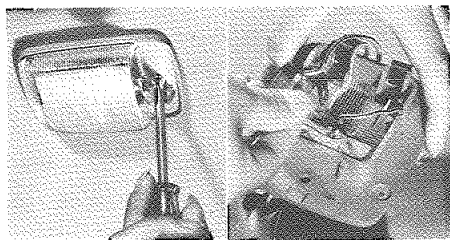
ランプ・ソケットは左へまわ
して取り出しバルブはいっぱい
押し込んで左へまわしては
ずしません。

はめるときは切り欠きをあわせて右へまわします。

パーキング・ランプは引っ張るとはずれます。

⑤ナンバー・プレート・ランプ(7.5W)
カバーのネジ2箇所をはずしてレンズを取り、バルブをいっぱい押し込んで左にまわしてははずします。

ルーム・ランプ



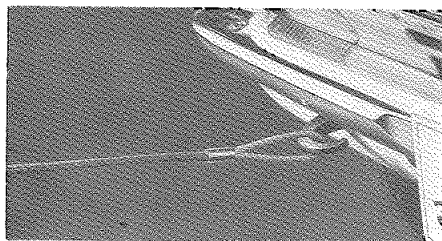
スイッチをOFFの位置にしてランプ取付けビスをはずします。

電球は引っばってははずします。

電球は12V-10Wです。

けん引の方法

1. けん引ロープをかける位置



フロントにロープをかけるときは、写真のようにけん引フックにかけてください。けん引フック以外にかけないでください。けん引フックはコロナマークⅡ取扱店にあります。

リヤ側にロープをかけるときは、リーフ・スプリングの後端にかけてください。

《注意》

1. エンジン・キーを一回ONにしステアリング・ロックを解除してから、ACCの位置にしてお車を移動してください。キーを抜いたままや、LOCK位置のまま移動されますと

ステアリング・ホイールが固定され非常に危険です。

2. けん引フック以外にはロープをかけないでください。
3. 車をけん引するときは、最長が25mを越えてはいけません。またロープが短かすぎると、けん引車に追突する恐れがありますので、ロープは5m前後とし、ロープの中ほどには白旗をむすびます。けん引される車は常にロープがたるまないように気をつけます。

塗装の手入れ

CORONA *MARK II* PICK-UP

■洗車



洗車は適時つぎのように行ないます。

- ①＝水圧を上げ水をボデーの下まわりにふきつけ付着している泥を落します。特にフェンダー内側は入念に洗います。
- ②＝ボデーに十分水をかけながら、スポンジなどでよごれを洗い落します。水量が少ないとほこり、泥によるすり傷がつきますのでご注意ください。しかしドアおよびクォーター・ウインドウガラス回りを洗うときには水圧を上げ過ぎないでください。
- ③＝水洗いで落ちにくい汚れは、トヨタカー・シャンプー液または中性洗剤を使用するときれいに落ちます。

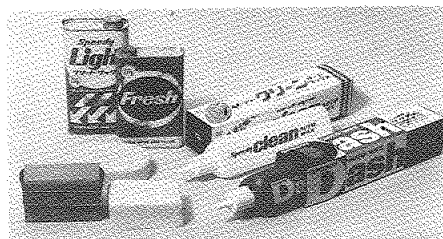
《注意》

洗剤を使用する場合、ボデーは必ず体温以下になってからにしてください。また洗剤が残らないようにしてください。

- ④＝タイヤに水をかけ、ブラシに石けんなどをつけて洗います。タイヤがきれいだと、車も一段と美しさが引き立ちますので念入りに洗いましょう。
- ⑤＝ボデーに残っている水分は、スポンジまたはセーム皮でよくふきとります。水滴が付いたままにしておきますと、塗装にはん点がついてしまうことがありますので注意してください。

■ワックスがけ

ワックスがけは、一カ月に一度、および水をはじかなくなったときに行なってください。塗装の表面にワックス分がなくなると、美しい光沢を失い、塗装の老化を早めます。このため定期的に良質のワックスを塗布して塗装の保護をしてください。塗装の保護には、トヨタ・オートワックスまたはトヨタ・スピーディ・ダ



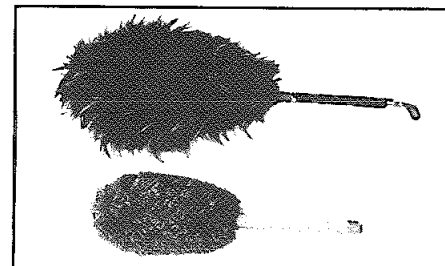
ッシュのご使用をおすすめします。

トヨタ・スピーディ・ダッシュの使い方は、少しずつ塗りながら仕上げてください。

オート・ワックスの使い方は、ワックスを柔らかい布で、表面の光沢が少しにごる程度にまんべんなく塗布し、ワックスが乾いてから、別の柔らかい布でみがきあげてください。

スピーディ・ダッシュは早く仕上げることができますが、オート・ワックスにくらべて、ワックス分が早くなくなります。ホコリがとれにくいときには帯電防止剤入りワックスをおすすめします。

おちにくい水垢、ピッチ、タールなどが付着しているときは、オート・ワックス・クリーナーをおすすめします。



《注意》

ボデーのほこりなどは、モップや、毛ばたきまたは柔らかい布ですり傷をつけないようにとり去ってください。塗装面のよごれは水洗いし、水分はよくふきとってからワックスがけをしてください。



塗装面が熱いときは、車を日陰に移し、体温以下にしてからワックスがけをしてください。

塗装面に異物が付いたままにしておくと塗装面が化学変化しやすく、はん点、変色の原因になりますので、すみやかに塗装の手入れをしてください。

a. ほこりや泥がついたとき

(雨あがり後または雪どけ道などを走行した場合)

洗車およびワックスがけを行なってください。

b. ばい煙、ピッチ、タール、虫または鳥のふんなどが付いたとき

洗車およびワックスがけを行なってください。

c. 塩分が付いたとき

(海岸地帯などで海水が付いたとき、または道路凍結防止剤などが散布してあるところを走行した場合)

洗車およびワックスがけを行なってください。特に下まわりは入念に行なってください。

《注意》

塩分による塗装の老化を防ぐため、塩分がとれるまで充分水洗いを行なってください。

■コンパウンドみがき

塗装の外観が極度に悪くなり、光沢、色調が回復しにくい場合は、粒子の細かいコンパウンドを選んで表面を軽くみがきます。この場合、局部的にみがくことはさけてある程度の広さを同一方向にみがいてください。

コンパウンドでみがいたあとは、充分水洗いをし、ワックスにより美しい光沢をとりもどしてください。

《注意》

コンパウンドみがきをひんぱんに行ったり、みがく方法を誤りますと下地が出てきますので、取扱店または塗装専門店に依頼されることをおすすめします。

